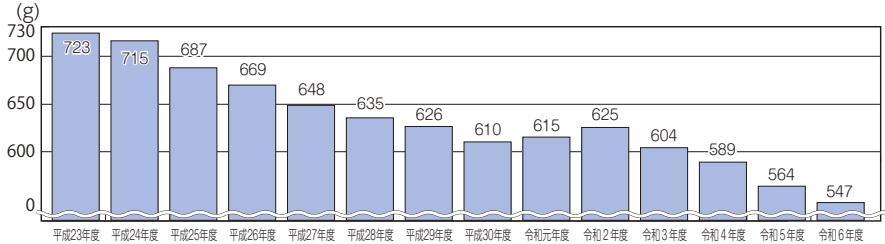


9. ごみと資源物

令和6年度の磯子区のごみと資源の処理量は 32,973t で、1人1日あたりのごみと資源の処理量は 547g でした。

〈1人1日あたりのごみと資源の総排出量の推移〉



磯子区では、区民、事業者、行政が一体となって環境行動を促進するため、様々な普及・啓発活動を実施しています。

ヨコハマ プラ5.3 (ごみ) 計画の策定

廃棄物行政を取り巻く状況は時代とともに変化し、SDGsの達成や脱炭素社会の実現、プラスチック対策や食品ロスの削減、さらには多様な社会ニーズへの対応など様々な課題への対応が求められています。こうした時代の変化に着実に対応していくため、横浜市では令和6年1月に「ヨコハマ プラ5.3 (ごみ) 計画 (横浜市一般廃棄物処理基本計画)」を策定しました。



<計画目標>

令和12年度までに燃やすごみに含まれるプラスチックごみの量を2万トン削減 (令和4年度比)

1人あたりに換算すると▲5.3kg/年

<区民の皆様に取り組んでいただきたいこと>

燃やすごみの中のプラスチックや食品ロスを減らしましょう！

コラム 8

減らそう！ プラスチックごみ

どんな問題があるの？

- ・世界全体で年間数百万トンものプラスチックが陸上から海洋へ流出しています。このままでは、2050年までに魚の重量を上回るプラスチックごみが海洋を占めると予測されています。
- ・リサイクルされない石油資源のプラスチックを燃やすと、多くの温室効果ガスが排出されるため、地球温暖化の要因の一つとなっています。

問題解決に向けて私たちができること

ポイ捨てをしないことに加え、ごみの元となるプラスチック、特に「使い捨てプラスチック」の利用を減らしていくことです。



マイバッグ・マイボトルを使用しましょう

レジ袋やペットボトルなどのごみを減らすために、出掛ける際にはマイバッグやマイボトルを持参しましょう。



使い捨て食器は断りましょう

マイ箸などを使用し、使い捨てのフォークやスプーン、ストローをもらわないようにしましょう。



環境に優しい製品を選びましょう

紙や再生材などの再生可能な資源を素材とした製品を進んで選びましょう。

減らそう！食品ロス

もったいない！まだ食べられるのに廃棄されている「食品ロス」の現状

食品ロスとは、食べ残しや手つかず食品、むき過ぎた野菜の皮など、本来食べられるのに、廃棄されている食べ物のことを指します。

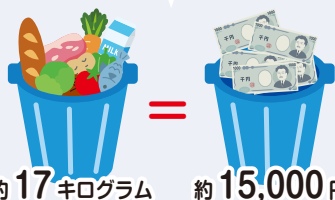
横浜市の家庭から出される燃やすごみの中には、年間約**6万4千トン**もの食品ロスが含まれており、これは一人当たり年間約**17キロ**になる量です。

一人当たり年間約**15,000円**が捨てられている計算になります。



燃やすごみの中から見つかった「手つかず食品」の例

これを金額に換算すると



約**17キログラム** 約**15,000円**

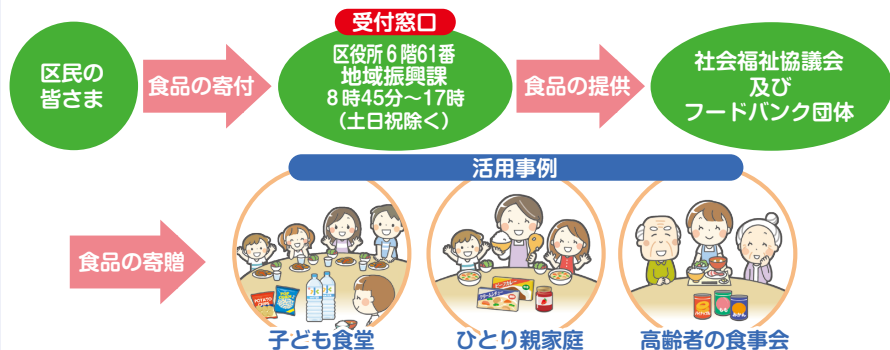
▶食品ロスをなくすことで、家計の節約にもつながります。一人ひとりができる『暮らしの中のもったいない』を見直しましょう。

フードドライブ活動

フードドライブ活動とは、各家庭で使い切れない未使用食品を持ち寄り、それらをまとめて地域の福祉施設や団体などに寄贈する活動です。まだ食べられるのに廃棄される食品を活用することで、食品ロスの削減にもつながります。

なお、区役所が集めた食品は、社会福祉協議会及びフードバンク団体を通じて、地域の福祉施設や食を必要としている方に寄贈しています。

区役所でのフードドライブ活動の流れ



ご提供いただける食品例

- ・お米、お茶漬け、海苔、ふりかけ
- ・パスタ、素麺などの乾麺
- ・調味料（しょうゆ、食用油など）
- ・缶詰、レトルト・インスタント食品
- ・粉ミルク、離乳食、お菓子 など



確認していただきたいこと「3か条」

- ①未開封のもの（外装が破損していないもの）
- ②賞味期限（要明記）が**2か月以上**あるもの
- ③常温保存できるもの